

知床世界自然遺産地域 ヒグマ保護管理方針検討会議（仮称）について

1．検討の目的

ヒグマが高密度に生息する知床半島において、ヒグマ個体群を健全に保全するとともに、利用者、地域住民との軋轢を解消するため、基本的な保護管理方針を検討することを目的とする。

2．検討の体制

知床世界自然遺産地域科学委員会の戦略的な作業グループとして位置付け、科学委員会および各 WG 等に所属する以下の委員と関係行政機関により構成する。事務局は環境省釧路自然環境事務所が務める。

エゾシカ・陸上生態系 WG

梶 光一 東京農工大学大学院

松田 裕之 横浜国立大学環境情報研究院

間野 勉 北海道立総合研究機構環境科学研究センター

（適正利用・エコツーリズム WG 委員 兼任）

適正利用・エコツーリズム WG

愛甲 哲也 北海道大学大学院農学研究院

敷田 麻実 北海道大学観光学高等研究センター

庄子 康 北海道大学大学院農学研究院

河川工作物 AP

小宮山英重 野生鮭研究所

関係行政機関

林野庁北海道森林管理局

北海道庁

斜里町

羅臼町

3．検討の枠組み

平成 22 年度は専門家と行政機関による現状の把握と分析を行うとともに、大まかな方針案のとりまとめを目標とする。実際の保護管理にあたっては、地元関係者の合意・協力が不可欠であるため、平成 22 年度に一定の方針案を取りまとめた後に、平成 23 年度以

降は、適正利用・エコツーリズム検討会議等の枠組みを活用し、2年から3年をメドに地元関係者との合意形成を図る。そのため、検討状況については平成22年度より適正利用・エコツーリズム検討会議に情報提供を行う。

4. 平成22年度の検討スケジュール

第1回検討会議（6月20日羅臼町）

第1回会議では、現在、知床財団と両町を中心として実施されているヒグマに関する調査研究成果や、人との軋轢の状況、それに対する対策等の整理を重点的に行い、知床半島のヒグマ個体群の現状、この地域における人間社会とヒグマとの関係性に関する共通認識を持つことを目標とする。可能であれば、今後管理方針案を取りまとめる上で、個体群管理（捕獲管理）と対人軋轢管理の両面からその方向性についても議論を行う。なお、会議終了後は羅臼町内を中心とした現地視察を予定している。

第2回検討会議（11月頃を予定）

第1回会議での現状把握を基に、対象とする地域、さらに対象地域内の個別エリアごとの個体数管理（捕獲管理）と対人軋轢管理に関する目標と施策の方向性、それらを実行する上で必要なモニタリング項目等について議論をすすめる。

第3回検討会議（2月頃を予定）

個別エリアごとの管理目標と施策、モニタリングについて具体的な手法も含め細部を検討したうえで、検討会議としての知床世界自然遺産地域及びその周辺地域におけるヒグマ保護管理方針案のとりまとめを行う。

平成23年度以降

検討会議方針案に対する地元への意見聴取を行い、保護管理方針策定にむけて意見の反映、修正を行う。